

15 杵築市薬用植物栽培組合（大分県杵築市）

産地の概要



品 目 キキョウ（ミシマサイコ、カワラヨモギ他）

栽培面積 1.5ha（令和6年10月時点）

栽培戸数 33戸

取組体制 杵築市（関係機関との調整、試験栽培の実施）
公益社団法人東京生薬協会（以下、東京生薬協会）
（栽培技術指導、種苗の提供）
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（基盤研）
【協力機関】 公益社団法人杵築市地域活性化センター（以下、杵築市地域活性化センター）

特 徴 『生薬の郷 杵築市』を目指して活発な活動により栽培者が増加中

取組の背景

市内の旧県立高校跡地の活用を検討していたこと、東京生薬協会の国内産地拡大の事業がマッチングし、平成26年度「薬用作物の国内栽培の促進に関する連携協定」を締結し、薬用作物の産地化を目指すこととした。試験栽培を経て、令和元年度よりキキョウをはじめとした薬用作物の営利栽培がスタートした。杵築市、杵築市地域活性化センター、栽培者として杵築市薬用植物栽培組合を設立し、技術確立、産地拡大を図っている。



▲栽培の様子

品目選定理由

- ・平成26年度より複数の薬用作物の試験栽培を行い、地域の気候条件に適し栽培可能な品目（キキョウ、ミシマサイコ、カワラヨモギ）を選定。
- ・キキョウは実需者からの増産需要も強く、機械化により省力化が図られたこともあり栽培面積が拡大。

課 題

- ・事例が少なく、産地に適した栽培マニュアルがない
- ・定植する根の調製など管理作業に多くの労力が必要
- ・条件不利地も多く、土壌条件（特に排水性）や日当たりの良いほ場選定が必要
- ・機械の導入コストがかかる ・オペレーターの育成、高品質な苗の生産が必要

主な取組内容

①種苗

- ・種苗は東京生薬協会より提供を受け、採種・育苗は分業化し杵築市地域活性化センターが実施

②栽培管理

- ・市が中心となり技術導入実証や栽培実績をとりまとめ、栽培推進のための経営モデル、栽培マニュアルを作成中
- ・定植機を導入し、定植作業時間を大幅に削減（80時間→8時間/10a、R5～）
- ・深耕ロータリーによる土壌改良を実施（R5～）
- ・栽培技術講習会の開催（R5～年4回）

③加工・調製

- ・杵築市地域活性化センターが受託
- ・根の洗浄は根菜類洗浄機、乾燥はシイタケ乾燥機を活用

④販売

- ・生薬部位は実需者との契約販売
- ・未利用部位の活用（生花の出荷、規格外の根の加工品 等）



▲現地での講習会



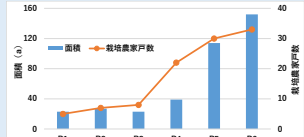
▲生薬部位



▲キキョウの花と生花の出荷

成 果

【取組による定量的な成果】
キキョウ栽培面積拡大 R1：23a → R6：152a



年度	面積 (a)	栽培農家戸数 (戸)
R1	23	2
R2	23	3
R3	23	4
R4	23	10
R5	100	25
R6	152	33

今後の展開

- ・圃場の選定、育苗～調製までの技術確立、機械による省力化を行い、戸別面積の拡大、収量増を目指す
- ・収量増、未利用部位の活用により収益向上を図り、薬用作物の経営モデルを確立する